教育委員提案

校内と校外の学習バランスについて

校外で学ぶことについて

【校外学習のねらい】
・校内で学んだことについて、実社会での活用や見学等を通して理解や技能等を深める。
・校外での学習を通して、新たな課題を発見したり、課題意識を発展させたりするとともに、学習意欲の向上を目指す。

学習指導要領特別活動編（遠足・旅行・集団宿泊的行事）

「教科等や総合的な学習の時間などの学習活動を含む計画を立て、授業時数に含めて扱うなど、柔軟な年間指導計画の作成について工夫するよう配慮するとともに、（中略）目標が十分に達成できるよう、事前・事後の活動などの綿密な指導計画を作成する必要がある。

▶各教科等と学習とつながりのある計画とする。

▶校外学習を行う際には、学習の目標達成に向けて、学習計画の一環として校外学習を位置づける。

校外で学ぶことについて

事前～校外学習～事後の活動の例　（遠足・旅行・集団宿泊的行事）

事前学習

– 訪問先の地域の特徴や主要な産業など、事前学習を行う。
– 現地で調べたいことや確認したいことを整理し、課題意識を明確化する。



現地滞在中

–その環境でしか実施できない学習活動を行う。
–現地の自然や文化、環境などを十分に体験する。
–事前に計画した教科に関わる学習や探究的な活動を、効果的に展開する。

事後学習

– 現地で学んだことや実践したこと等をまとめ、発表する。
– 課題意識と照らし合わせ、「学んだこと」「予想との違い」「新たな疑問」などを整理し、さらに学びを深める。

事前の学習で課題意識を持たせ、現地で体験・探究し、事後にまとめや発表、発展的な学習につなげるなど、学びの過程の中に位置づけている。

校外学習の例

小２ 「まちたんけん」（生活）





小３ 「お店見学」（社会）



事前に調べたことを確かめたり、話を聞く中で新たな発見や課題を発見したりする。

小５ 「林間学校」（学校行事＋理科）



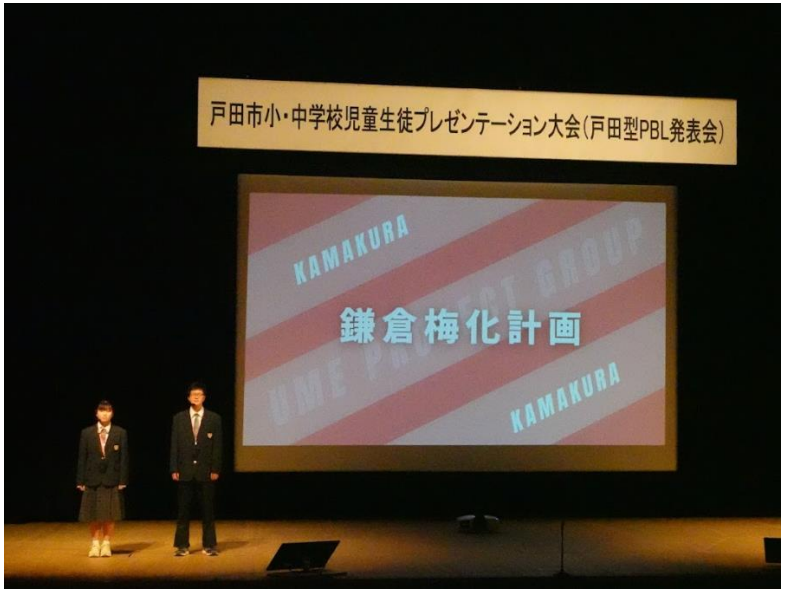
理科の学習を元に、星空観察会を行い、学習内容を深めるなど、教室で学んだことの確認や活用を通して、時間の伴った理解につなげる。

校外学習の例

小６･中３ 「修学旅行」（学校行事＋教科）

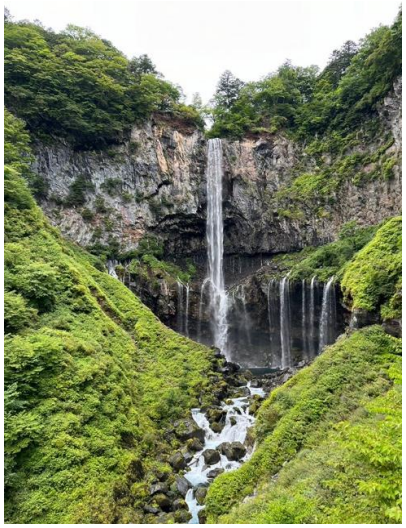












行き先での行程確認だけでなく、歴史や自然、文化などについて事前学習を行う。事後にはグループごとの課題に即して学習をまとめ、プレゼン形式で発表。

参考（令和７年度における行き先）　**小学校：日光**　**中学校：京都・奈良・大阪・広島**

※林間学校や修学旅行はコロナ禍を経ても縮小はしていない

校外学習の例

特別支援学級 「Café「虹のかけはしへ」（自立活動）







事前にお金の大切さや支払いの仕方や働くことについて学習した上で、学校の近隣にあるお店で実際にお金を使って物を買ったり、働いている人にインタビューをしたりする活動を行う。事後には、学習したことをまとめ、保護者向けに発表。

地域のリソースに応じた特色ある校外学習の工夫

地域貢献・ボランティア活動

中２ 「地域の課題解決」（総合的な学習の時間）

社会の学習で環境にごみが大きな影響を与えることを知った生徒が、地域のごみ拾いを試しに行ったところ、たくさんのごみがあることを知り、探究課題化。



こんなにいっぱい
ごみが落ちている！！



ごみを拾ってもらう仕組みを作る

駄菓子屋に拾ったごみを3つ持ってくる



↓

くじが引ける 

↓



当たりが出たらお菓子をゲット!!

地域貢献・ボランティア活動

その他の活動



戸田第一小6年　PBL「地産地消×SDGs」



新曽中吹奏楽部　郷土博物館40周年記念祭コンサート



笹目中学校　図書館でのPOP展示



各校児童会・生徒会活動　赤い羽根募金活動

より一層の充実のために・・・

今後の課題

□校外に行くことを目的化せず、事前・事後の学習を充実させること

【事前】　調べるだけにとどまらないよう、課題意識をもてるようにする

【事後】　調べたことの発表だけにとどまらないよう、校外で体験や学びが普段の生活や学習に生かせるようにする

さらに

校外学習は、教室外の実体験を通じて学びへの関心を高めたり、理解を深めたり、地域や社会とのつながりを実感したりする重要な機会となる。様々な体験活動や校外学習を適切に計画・実施していくためにも、今後は一層のカリキュラム・マネジメントも求められる。

○目的を明確にし、指導計画をたてる

○他教科との連携を含む、全体の構想を明確にもつ

○地域の事態を把握し、地域や家庭と連携を図る

